

第5節 安全で快適な生活が送れるまち

6 下水道・河川

～公共下水道の整備や良好な水辺環境の実現が図られているまち

<A 基本計画の目標>

公共下水道（雨水）、河川並びに雨水貯留施設整備をさらに推進し、浸水被害の解消をめざします。
 下水道の普及をさらに促進させるとともに、市街化調整区域内の生活排水処理をすることにより、生活環境の向上を図ります。
 施設の改築・更新等を推進し、鎌倉処理区の再構築をめざします。
 水環境の向上に努め、親水性を高めます。
 下水道資源（水・熱・汚泥等）の有効利用を図ります。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	63.3 %	68.2 %	70.5 %	68.8 %	69.3 %	↑

<C 目標達成に向けた24年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績（前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント）

【都市整備部】	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> 公共下水道(汚水)の整備を市街化区域で約0.2km、市街化調整区域で約0.4km実施しました。 老朽管を対象に、管更生工事を約1.9km実施しました。 汚水施設の地震対策として、人孔の浮上防止及び管口の可とう化(地震等で地中が歪んで管などが折れることを回避するため、管の接続部分に柔軟性を持たせること)を25箇所で行いました。 浄化センターにおける未利用エネルギーの利活用についての検討を行いました。 	◎
<ul style="list-style-type: none"> 公共下水道(雨水)の整備を約0.7km実施しました。 準用河川新川の護岸補強工を施工しました。 準用河川の洪水対策として、砂押川・新川の浚渫を行いました。 雨水調整池の機能を維持するため、玉縄2号調整池他の浚渫を行いました。 極楽寺第1雨水幹線他の劣化診断調査を行いました。 梶原川雨水幹線他において、管更正工や排水工を施工しました。 古川排水区他において、流れを阻害する堆積土砂の浚渫を行いました。 雨水排水施設について、パトロールや要望等で発見された突発的な維持修繕を行いました。 滑川の施設等現況調査を行いました。 滑川や滝ノ川について、樹木の伐採・枝払いを行いました。 市内各所の河川に設置されたフラップゲートの点検や塗装を行いました。 	◎
<ul style="list-style-type: none"> 七里ガ浜浄化センターは平成24年度末で全ての工事が完了し、施設改築更新が終了しました。 汚水中継ポンプ場の改築工事について、中部ポンプ場の工事が完了し、主幹3ポンプ場(七里ガ浜、西部、中部)の改築更新工事が終了しました。 汚泥焼却灰(加湿灰)は、放射能問題でやむなく平成23年度途中から場内一時保管を行いました。その後、適正処理の検討や設備改造を行ったことにより、平成24年度からは乾灰で建設資材用原料化として有効利用を再開しました。 	◎

前年度当初目標に対し、◎＝80%以上○＝50%以上△＝30%以上×＝30%未満

<D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

【都市整備部】

・大規模災害に対応する下水道BCPの早期策定をめざして頂きたい。策定の目標年度を明確にしたい。



平成26年度を目標に下水道BCPの策定を行います。なお、平成24年度から暫定の下水道BCPの策定を順次進めています。

・東日本大震災発生に起因した社会資本整備総合交付金減額、未普及箇所整備縮小の問題などへの対応が必要であり、雨水排水施設など予算がかかる事業をどのように推進するか、今後も努力を期待する。

平成24年度に策定した鎌倉市下水道中期ビジョンの重点施策のうち財政の健全化の中で、短・中・長期的な事業の位置付けと区分を行い、対策による効果を示したうえで優先度を判定し、段階的に取り組んでいくこととしています。従来からの公共下水道(雨水)の整備と併せて、計画降雨量を超える超過降雨に対する雨水貯留槽等の整備に向けた詳細な検討を行い、両事業のバランスや費用対効果を考慮しながらより効率的に事業を推進します。

・最近の集中豪雨で水害が起きる箇所が市内にもあるので、対策が必要である。河川に関しては、防災との連携も含め、災害の想定見直しなど必要な対策を望む。

従来からの公共下水道(雨水)の整備と併せて、計画降雨量を超える超過降雨に対する雨水貯留槽等の整備に向けた詳細な検討を行います。また、河川に関しては、津波遡上等の課題も含め防災部局や県等との連携した対応を図ります。

<E 24年度未達成事業の課題・問題点など>

【都市整備部】

予定どおり、着実に事業を進めています。(平成24年度において、主たる課題・問題点は特にありません。)

※未達成の理由<支障となった理由>

<F 今後の展開(取組方針)>

【都市整備部】

・老朽化した施設に代え、新たに地震・津波に対応した下水道幹線の再整備計画である持続型下水道幹線再整備計画の基本計画を策定します。

・污水管渠への不明水混入等による溢水について、原因究明を進め、老朽管の更生・併せ、抜本的な解消を図ります。
 ・老朽化による人孔蓋のガタツキによる躯体や舗装の劣化を防止することなどを目的に、下水道長寿命化計画を策定し、下水道施設の長寿命化に取り組みます。

・改築未更新の汚水中継ポンプ場(七里ガ浜ポンプ場第2、極楽寺、東部、南部)の改築更新工事を計画的に進めます。
 ・汚泥・焼却灰について、引き続き有効利用を行うとともに今後も安定した有効利用先の確保のための調査検討を進めます。

・公共下水道(雨水)や河川等の整備を推進するため、国庫補助等の財源確保に努め、浸水被害の解消を図ります。
 ・雨水排水施設の耐震化については、後期実施計画事業として採択されています。今後は、緊急輸送路等のマンホール浮上抑制対策等に着手するため、国庫補助等の財源を確保しつつ、適切な対応を図ります。

<G 実績指標：事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	H22年度 目標値	H27年度 目標値
公共下水道の普及率(+)	総人口に占める公共下水道の供用開始区域内人口の割合	95 %	96.5 %	96.6 %	96.8 %	96.9 %	98 %	100 %
水辺環境の改善率(+)	川の水がきれいになったと感じる市民の割合	57.6 %	63.9 %	65.7 %	59.8 %	61 %	65 %	69 %

<H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	3,155,949千円	3,252,040千円	3,672,861千円	3,117,176千円	3,143,387千円			
	(国・県)	681,270千円	749,569千円	1,047,085千円	699,164千円	784,113千円			
	(負担金等)	468,671千円	215,155千円	1,115,100千円	521,095千円	0千円			
	(一般財源)	2,006,008千円	2,287,316千円	1,510,676千円	1,896,917千円	2,359,274千円			
	人員配置数	57.7人	89.7人	86.4人	82.4人	74.0人			
	人件費 (B)	516,335千円	787,614千円	738,614千円	701,905千円	586,135千円			
	総事業費(A+B)	3,672,284千円	4,039,654千円	4,411,475千円	3,819,081千円	3,729,522千円			
	対前年比		110.0%	109.2%	86.6%	97.7%			

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・着実に設備の老朽化対策や更新事業などを進められている。
- ・市街化区域で約0.2km、市街化調整区域で約0.4kmと、公共下水道の整備を着実に実施した。
- ・浄化センターにおける未利用エネルギーの利活用についての検討を進めた。
- ・七里ガ浜の浄化センターも改良工事が完成し、より充実した下水道整備が期待できる。
- ・超過降雨に対する雨水貯留槽等の整備の検討を行った。
- ・洪水対策としての河川の「しゅんせつ」や、雨水調整池の機能維持のための「しゅんせつ」を実施した。
- ・川には魚がすみ、そこに集まる鳥も増えている。着実に良くなっている。



課題・提言

- ・老朽化施設への対応に加え、下水道BCPの策定及び検討や、地震・津波対策の検討など、災害時対応を含めた山積する課題への対応が必要である。その際には、老朽化した設備から、津波や地震に対応できる下水道幹線の再整備の検討も必要である。
- ・津波に関する課題を今後も他部局と連携して進める必要がある。
- ・今後、上下水道管の保守等にお金がかかり、料金の値上げをさらに行わなければならない状態になりつつある。民営化も検討する必要がある。
- ・計画降雨量を超える超過降雨に対する防災・減災対策の一層の充実を図る必要がある。
- ・平成23年度の市民評価委員会などからの指摘に対する回答について、どの様な取組が行われたのか確認できない。
- ・平成24年度の市民評価委員会などからの指摘に対する回答について、「調査検討を進めます」「取り組みます」「図ります」と回答されていることに対しては、平成25年度の評価シートにより、具体的にどの様な取組を行い、どの様な効果が得られたのか確認できるようにすべきである。

この分野のめざすべきまちの姿に向けた平成24年度の取組は、**良好であった。**